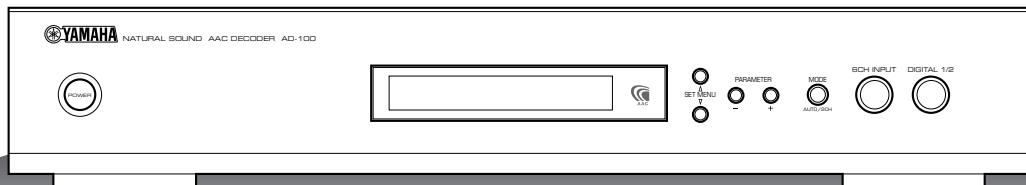




AACデコーダー

AD-100

NATURAL SOUND AAC DECODER



取扱説明書

このたびは、YAMAHA AACデコーダーAD-100をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

AD-100の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありまんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

目次

安全上のご注意	2
特長	6
各部の名称とはたらき	7
接続のしかた	9
スピーカーモードの設定	11
再生	12
出力モードと表示	13
セットメニュー	15
故障かなと思ったら	19
仕様	19
ヤマハホットライン サービスネットワーク	裏表紙

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただるために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。
たとえば は「分解禁止」を示しています。



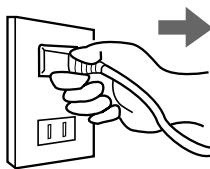
必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

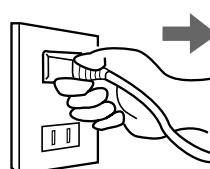
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



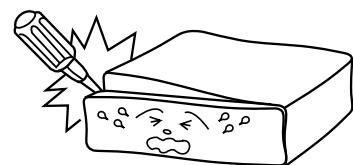
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



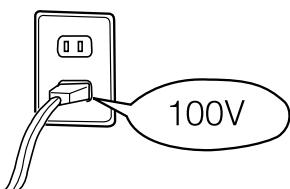
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

分解・改造を絶対しない
(キャビネットをはずすことも含む)



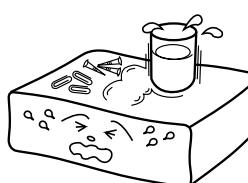
火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



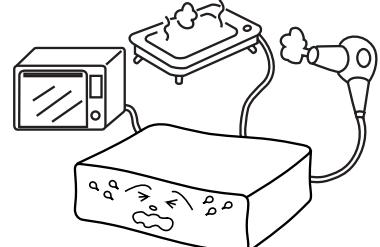
火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。また、本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。

供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



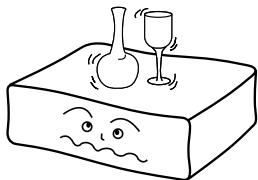
火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど)は接続しないでください。



警告

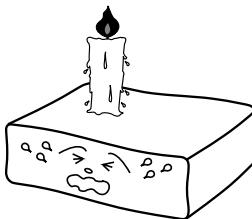
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

（） 陶器やガラス類などを置かない



振動により落ちたり、倒れたり、割れたりする
とケガをする恐れがあります。

（） 火のついたローソクなどを置かない



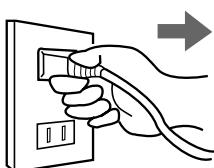
火災・感電の原因となったり、火傷をする恐
れがあります。

（） 雷が鳴っているときは、電
源プラグに触れない



感電の原因となります。

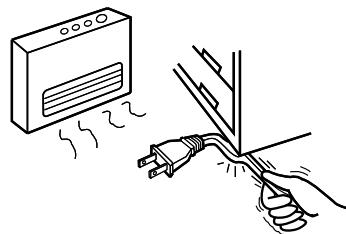
（） 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイ
ッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理を
ご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめく
ださい。

（） 電源コード・プラグを破損するようなことを
しない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ね
じる、引っ張る、束ねる、重いものをのせるなどしない）



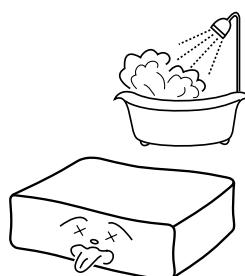
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

（） 放熱のため：
布やテーブルクロスをかけない
じゅうたん・カーペットの上には、設置しない
あおむけや横倒しには設置しない
通気性の悪い狭いところへは押し込まない
他の機器とは重ねて設置しない



火災の原因となります。

（） 風呂、シャワー室などで使用しない

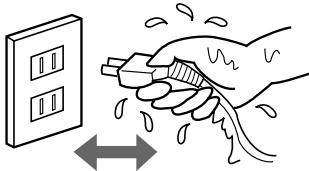


火災・感電の原因となります。

注意

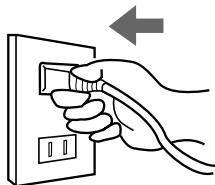
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

- ! 電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っ張らないでください。

傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

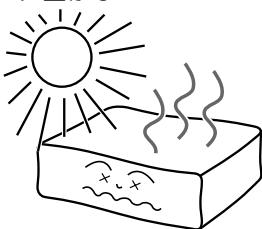
- ! 電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



プラグにはほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

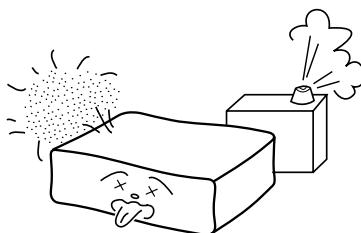
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

- 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



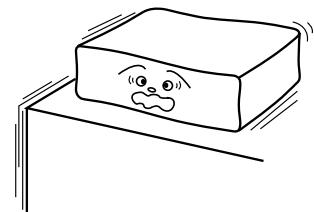
キャビネットや部品に悪い影響を与えたる、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- 湿気やほこりの多い場所に置かない



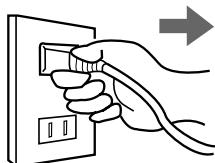
加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となります。

- 振動のある場所、ぐらついだ台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



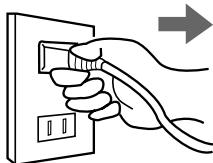
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



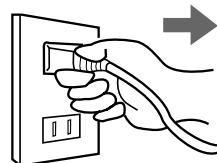
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



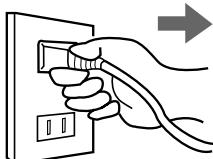
感電の原因となります。



注意

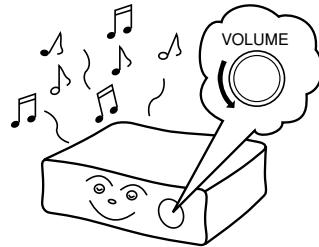
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

● 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



火災の原因となることがあります。

● 再生を始める前にはアンプの音量を最小にする



突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

● 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまつたまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

デジタルオーディオインターフェイス規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェイスに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェイス機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりではなくスピーカーをいためる原因となることがあります。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

特長

BSデジタル放送音声フォーマット、AAC¹信号対応

本機に搭載のAACデコーダーにより、BSデジタルテレビ/チューナーからのAACデジタル信号をアナログ信号にデコード(変換)し、本機の6CH OUTPUT端子から出力します。5.1chアナログ入力端子を装備しているアンプ、レシーバーに接続することにより、5.1chサラウンド音声で放送される映画、音楽番組などを臨場感豊かな音声で楽しめます。

マルチチャンネル入出力端子装備

本機を接続することによりふさがってしまうアンプ、レシーバーの5.1chアナログ入力端子を補完するため、DVDプレイヤーなどからのアナログ5.1ch信号を入力できる6CH INPUT端子を装備しています。6CH OUTPUT端子からは、本機でデコードしたアナログ5.1ch信号と、DVDプレイヤーなどからのアナログ5.1ch信号とを切り替えてアンプ、レシーバーに出力できます。

デジタル入出力端子装備

BSデジタルテレビ/チューナー接続用のデジタル入力端子に加え、D-VHSビデオデッキのデジタル信号を入力できるデジタル入力端子を装備しています。またPCM²信号入力時に、デジタル信号のまま出力できるデジタル出力端子も装備しています。

出力チャンネル数を自動で切り替え

出力モードの設定により、入力されたデジタル信号の種類を判別し、出力するチャンネル数を自動的に切り替えます。

¹エーエーイー アドバンスト オーディオ コーディング
¹ AAC(Advanced Audio Coding)

BSデジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高压縮率と高音質が特長で、2chステレオ音声に加え、5.1chサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

²ピーエーエム パルス コード モジュレーション
² PCM(Pulse Code Modulation)

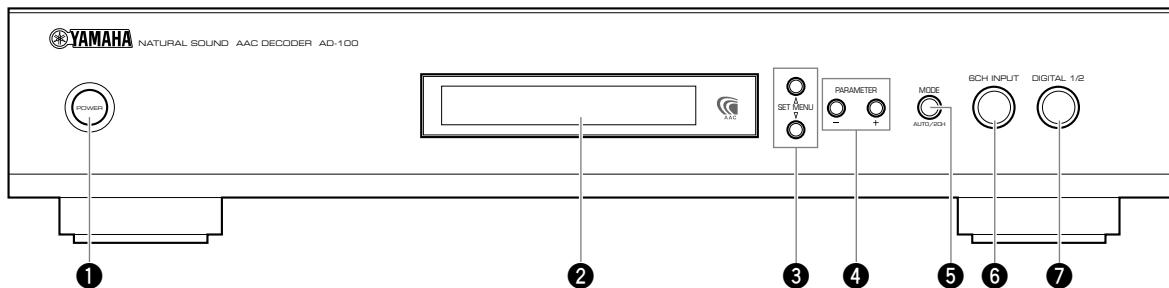
アナログ音声信号を圧縮せず、そのままデジタル信号化して録音・伝送する音声方式です。信号の劣化が少なく、CDと同等の高音質な2chステレオ音声が特長です。



AACロゴマークは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



① POWERスイッチ

本機の電源をオン/オフします。電源をオンにしてから数秒間は音が出ません。

② ディスプレイ

入力信号の種類や、パラメーターなどの動作状況を表示します。P.7『ディスプレイ』を参照してください。

③ SET MENU(△/▽)キー

設定したいメニューを選択します。P.15『セットメニューの操作手順』を参照してください。

④ PARAMETER(+ / -)キー

選択したメニューのパラメーター値の設定をします。P.15『セットメニューの操作手順』を参照してください。

⑤ MODE(AUTO/2CH)キー

本機の出力モードの選択をします。P.13『出力モードと表示』を参照してください。

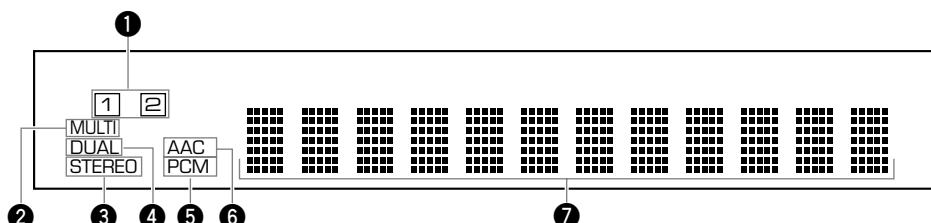
⑥ 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に接続した機器の信号を選択します。P.12『再生』を参照してください。

⑦ DIGITAL 1/2キー

光デジタル入力端子に接続した機器の信号を選択します。P.12『再生』を参照してください。

ディスプレイ



① 1/2インジケーター

光デジタル入力端子1を選択しているときは①が、光デジタル入力端子2を選択しているときは②が点灯します。

マルチ

② MULTIインジケーター

AACマルチチャンネル信号が入力されると点灯します。

ステレオ

③ STEREOインジケーター

ステレオ信号が入力されると点灯します。

デュアル

④ DUALインジケーター

二重音声信号が入力されると点灯します。

⑤ PCMインジケーター

PCM信号が入力されると点灯します。

エーエー

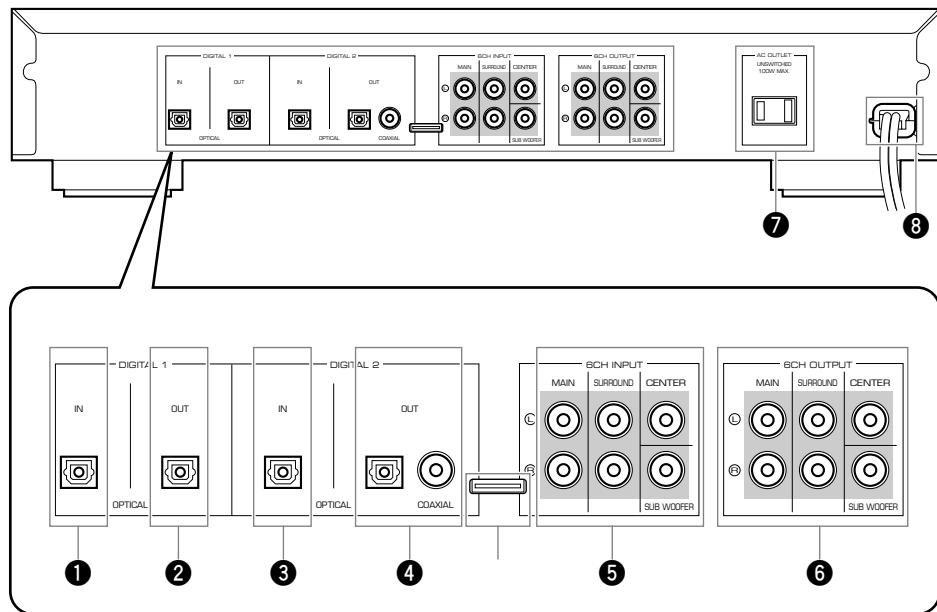
⑥ AACインジケーター

AAC信号が入力されると点灯します。

⑦ 入力信号表示/メニュー項目表示/設定値表示

通常は入力信号の種類(AAC、PCMなど)が表示されています。また、出力モードやパラメーター、セットメニューなどのさまざまな設定値を、各操作に応じて表示します。

リアパネル



① 光デジタル入力端子1

BSデジタルチューナーの光デジタル出力をつなぎます。

② 光デジタル出力端子1

光デジタル入力端子1(①)に入力されたデジタル信号をそのまま出力します。P.14[¶]入力されたデジタル信号をスルー出力する』を参照してください。

③ 光デジタル入力端子2

D-VHSビデオデッキの光デジタル出力をつなぎます。

④ 光/同軸デジタル出力端子2

光デジタル入力端子2(③)に入力されたデジタル信号をそのまま出力します。P.14[¶]入力されたデジタル信号をスルー出力する』を参照してください。

⑤ チャンネル インプット

DVDプレイヤーなど5.1chアナログ出力端子を装備している機器の出力をつなぎます。

⑥ チャンネル アウトプット

光デジタル入力端子に入力されたデジタル信号をアナログ信号にデコードし出力します。P.13[¶]出力モードと表示』を参照してください。

また、6CH INPUT端子選択時または本機の電源オフ時には、6CH INPUT端子(⑤)に入力された信号をそのまま出力します。P.12[¶]再生』を参照してください。

⑦ 電源供給コンセント(AC OUTLET UNSWITCHED)

P.11[¶]電源コードの接続』を参照してください。

⑧ 電源コード

P.11[¶]電源コードの接続』を参照してください。

工場検査用の端子なので使いになれません。

接続のしかた

正しい接続のために

注意！

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

右チャンネル(R) 左チャンネル(L) 入力(IN) 出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

デジタル入出力端子を接続する

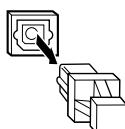
BSデジタルチューナーとの接続

光ファイバーケーブルを使って、BSデジタルチューナーの光デジタル出力端子と、本機の光デジタル入力端子をつなぎます。

アンプ、レシーバーとの接続

光ファイバーケーブルまたは同軸ケーブルを使って、本機の光/同軸デジタル出力端子とアンプ、レシーバーの光/同軸デジタル入力端子をつなぎます。

防塵キャップについて



光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル入出力端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。ほこりなどの浸入を防ぎます。

メモ

本機の光デジタル入出力端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファーバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

6CH INPUT/OUTPUT端子を接続する

5.1chアナログ出力端子を装備している機器との接続

6CH INPUT端子にDVDプレイヤーなど5.1chアナログ出力端子を装備している機器を接続することができます。DVDプレイヤーなどの5.1chアナログ出力端子を本機の6CH INPUT端子につなぎます。

アンプ、レシーバーとの接続

付属のオーディオ接続コードを使って、本機の6CH OUTPUT端子とアンプ、レシーバーの5.1chアナログ入力端子をつなぎます。

本機の6CH INPUT端子に入力された信号は、6CH INPUTキーで“6CH IN:ON”を選択すると本機の6CH OUTPUT端子から出力されます。また本機の電源がオフのときは、常にスルー出力されます。P.12『再生』を参照してください。

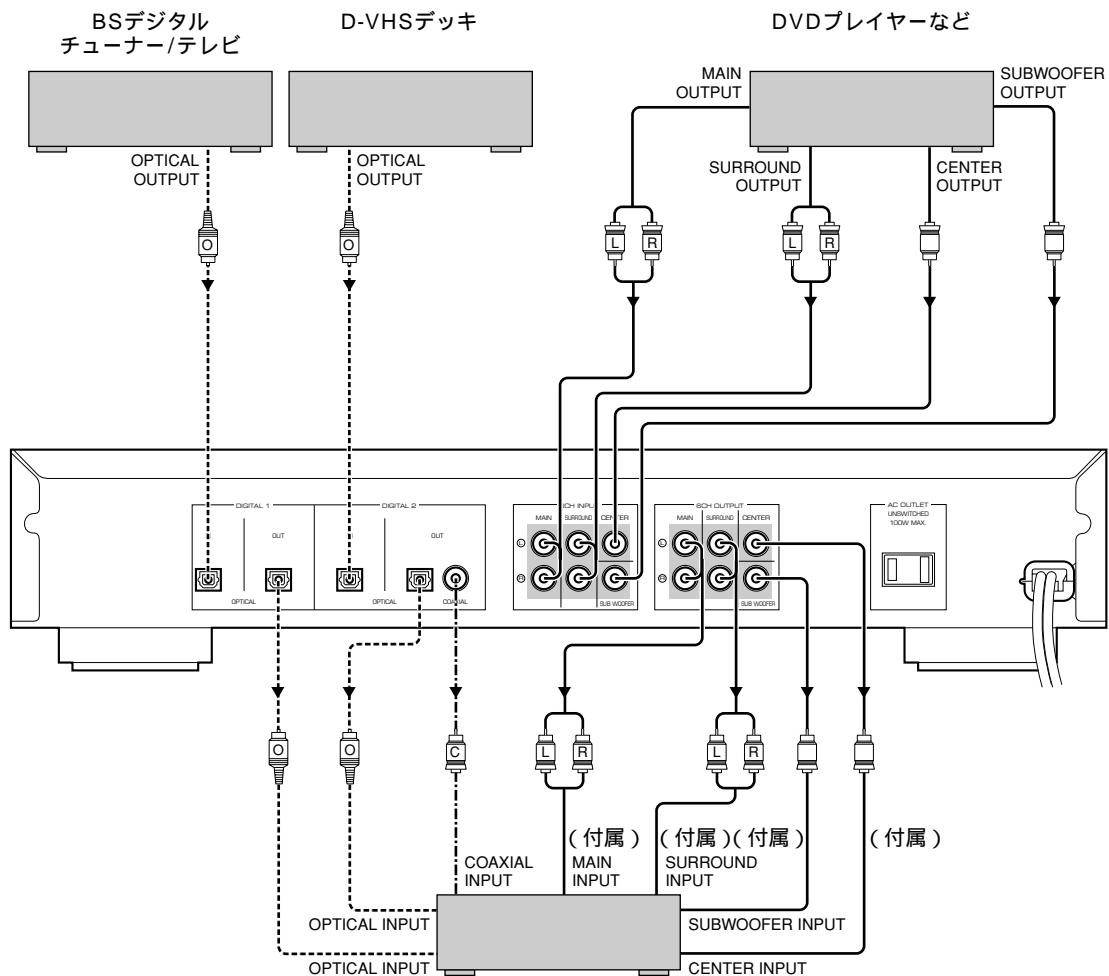
メモ

メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

6CH INPUT端子に入力された信号には、スピーカーモードの設定(セットメニューの1～4)は適用されません。

各機器との接続が終了したら、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

次ページの接続図も参照してください。

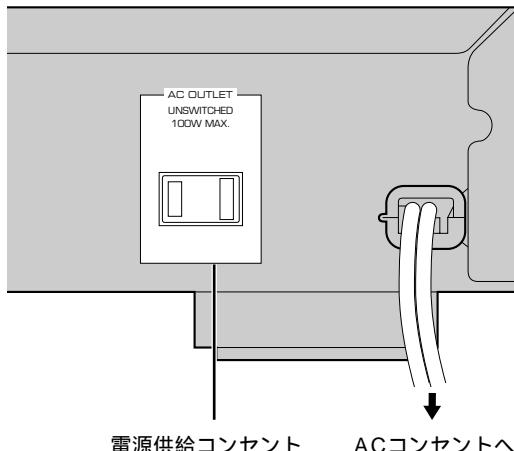


電源コードを接続する

すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続してください。本機の消費電力は10Wです。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

エーシー アウトレット アンスイッチド

電源供給コンセント(AC OUTLET UNSWITCHED)



外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントです。電源プラグがコンセントに接続されれば、本機の電源がオフになっていても、消費電力100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

スピーカーモードの設定

ご使用になるスピーカーの数や大きさに合わせた最良の音場効果を得るためにスピーカーモードを設定することができます。ご使用の前にP.15『セットメニュー』にて下記の4項目のスピーカーモードを設定してください。

設定内容

項目	設定内容	可変範囲 (太字は初期設定)
センター スピーカー 1 CENTER SP	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LARGE/SMALL/NONE
メイン スピーカー 2 MAIN SP	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE/SMALL
リア スピーカー 3 REAR SP	リアスピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LARGE/SMALL/NONE
エルエフイーバス 4 LFE/BASS	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。	SWFR/MAIN/BOTH

メモ

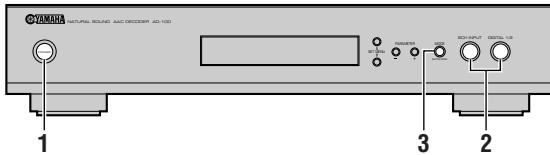
スピーカーモード1~3は、目安としてご使用になるスピーカーのウーファー口径が16cm以上の場合はLARGE、16cm未満の場合はSMALLに設定してください。スピーカーの性能により、設定がお好みに合わない場合は、実際の再生音を聴きながら設定しなおしてください。

本機に接続するアンプ、レシーバー側で、アナログ入力信号に対するスピーカーモードの設定が可能な場合、本機での設定は初期設定(スピーカーモード1~3はLARGE、スピーカーモード4はSWFR)のままお使いください。

AAC 5.1ch再生時に、スピーカーモードの設定でセンタースピーカーやリアスピーカーの設定をNONEにした場合、NONEにしない場合に比べ音量レベルが小さくなることがあります。

また、NONEに設定している場合に、AAC 5.1ch再生から他のソースに切り替えたときやNONEを解除したときには音量レベルが大きくなることがありますので、それらの切り替えはアンプ側の音量レベルを下げてから行ってください。

再生



- 1** POWERスイッチを押して電源を入れます。
ディスプレイに選択されているソース(FIXED:1、6CH INPUTなど)が表示され、そのあと入力信号の種類が表示されます。

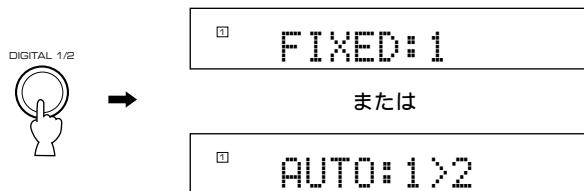


以下はディスプレイ表示と入力信号の種類についてまとめたものです。

ディスプレイ表示	入力信号の種類
NO SIGNAL	デジタル信号入力なし
fs=32k PCM (サンプリング周波数 = 32kHz) fs=44.1k PCM (サンプリング周波数 = 44.1kHz) fs=48k PCM (サンプリング周波数 = 48kHz)	PCM信号
MPEG AAC	AAC信号
6CH INPUT	アナログ信号(6CH INPUT端子選択時)
NOT AAC/PCM	AAC、PCM以外のデジタル信号

- 2** 再生したいソースを選択します。

光デジタル入力端子1に接続したソースを選択する
DIGITAL 1/2キーを押して、“FIXED:1”または
“AUTO:1>2”をディスプレイに表示させます。光デジタル入力端子1を選択しているときは①インジケーターが点灯します。



光デジタル入力端子2に接続したソースを選択する
DIGITAL 1/2キーを押して、“FIXED:2”または
“AUTO:2>1”をディスプレイに表示させます。光デジタル入力端子2を選択しているときは②インジケーターが点灯します。

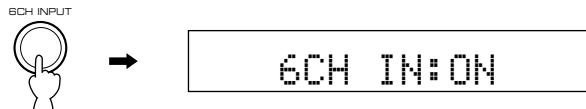


本機に入力されたデジタル信号は本機に搭載のデコーダーにより、アナログ5.1chまたは2ch信号にデコードされ、6CH OUTPUT端子から出力されます。詳しくはP.13『出力モードと表示』を参照してください。

INPUT DTCT(入力感知機能の設定)について

本機には光デジタル入力端子1/2を手動で選ぶ方法FIX(固定)モードと、信号の有無により本機が自動的に選ぶ方法AUTO(自動)モードがあります。セットメニュー「INPUT DTCT」で“AUTO”または“FIX”を選択できます。P.18『INPUT DTCT(入力感知機能の設定)』を参照してください。

6CH INPUT端子に接続したソースを選択する
6CH INPUTキーを押して、“6CH IN: ON”をディスプレイに表示させます。



6CH INPUT端子を選択している間、入力信号表示は“6CH INPUT”となります。

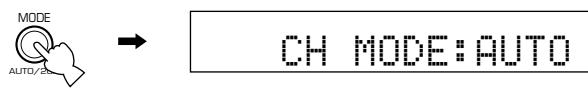
選択を解除するときは、6CH INPUTキーを押して、“6CH IN: OFF”をディスプレイに表示させるか、DIGITAL 1/2キーを押してください。

メモ

本機の電源がオフのとき、6CH INPUT端子に入力された信号はそのまま6CH OUTPUT端子に出力されます。

- 3** 本機の出力モードを設定します。

MODE(AUTO/2CH)キーを押して“CH MODE: AUTO”または“CH MODE: 2CH”を選択してください。AUTOを選択すると、入力信号の種類により、自動的にアナログ信号の出力チャンネル数が切り替わります。2CHを選択すると、入力信号の種類にかかわらず強制的にアナログ2CH信号を出力します。詳しくはP.13『出力モードと表示』を参照してください。



または



メモ

6CH INPUT端子を選択している場合、出力モードの設定は、6CH INPUT端子に入力される信号には適用されません。

- 4** 機器の再生(または放送の受信)を始めます。
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

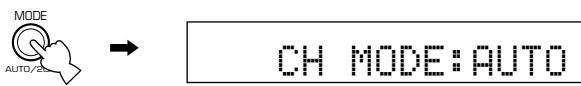
出力モードと表示

本機の出力モードにはAUTOと2CHの2種類があります。再生するソースの種類や本機の6CH OUTPUT端子に接続するアンプ、レシーバーの種類によりお好みのモードを選択してください。

出力モードをAUTOにして使用する

入力されているデジタル信号の種類を判別して、6CH OUTPUT端子に出力するアナログ信号のチャンネル数を自動的に切り替えるモードです。

MODE(AUTO/2CH)キーを押して、“CH MODE:AUTO”をディスプレイに表示させます。



AAC 5.1ch信号が入力されているとき



AAC 5.1ch信号はアナログ5.1ch信号にデコードされ、6CH OUTPUT端子(MAIN L/R、REAR L/R、CENTER、SUBWOOFER)に出力されます。

AAC 2ch信号が入力されているとき



AAC 2ch信号はアナログ2ch信号にデコードされ、6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されます。

AACモノラル信号が入力されているとき



AACモノラル信号は、6CH OUTPUT端子のCENTERに出力されます。

AAC二重音声信号が入力されているとき



セットメニュー「5 SOUND」で設定された音声(主、副、主副両方)が、出力されます。P.17「5 SOUND(二重音声出力の設定)」を参照してください。

PCM信号が入力されている場合



PCM信号は2ch信号ですので、アナログ2ch信号として6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されます。

メモ

入力されたPCM信号は、アナログ2ch信号として6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されると同時に、デジタル出力端子にもスルー出力されます。アンプ、レシーバー側で5.1chアナログ入力端子の選択を解除すれば、アンプ、レシーバーに搭載の音場プログラムをかけることができます。

BSデジタルチューナーなどのソース側のデジタル出力がPCMに設定されていて、出力されている信号が二重音声の場合は、ソース側で音声の設定(主、副、主副両方)ができるものがあります。

出力モードを2CHにして使用する

入力されているデジタル信号の種類にかかわらず、強制的にアナログ2ch信号にデコードし、出力するモードです。

MODE(AUTO/2CH)キーを押して、“CH MODE: 2CH”をディスプレイに表示させます。



AAC 5.1ch信号が入力されているとき



AAC 5.1ch信号はアナログ2ch信号にミックスされ、6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されます。

AAC 2ch信号が入力されているとき



AAC 2ch信号はアナログ2ch信号にデコードされ、6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されます。

AACモノラル信号が入力されているとき



AACモノラル信号はアナログ2ch信号に振り分けられ、6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されます。

AAC二重音声信号が入力されているとき



セットメニュー「5 SOUND」で設定された音声(主、副、主副両方)が出力されます。P.17「5 SOUND(二重放送音声出力の設定)」を参照してください。

PCM信号が入力されているとき



PCM信号は2ch信号ですので、アナログ2ch信号として6CH OUTPUT(MAIN L/R)端子に出力されます。

メモ

入力されたPCM信号は、アナログ2ch信号として6CH OUTPUT端子(MAIN L/R)に出力されると同時に、デジタル出力端子にもスルー出力されます。アンプ、レシーバー側で5.1chアナログ入力端子の選択を解除すれば、アンプ、レシーバーに搭載の音場プログラムをかけることができます。

BSデジタルチューナーなどのソース側のデジタル出力がPCMに設定されていて、出力されている信号が二重音声の場合は、ソース側で音声の設定(主、副、主副両方)ができるものがあります。

入力されたデジタル信号をスルー出力する

本機は入力されたデジタル信号をデコードせず、そのまま出力(スルー出力)することもできます。

光デジタル入力端子1に入力された信号は、光デジタル出力端子1から、光デジタル入力端子2に入力された信号は、光/同軸デジタル出力端子2からそれぞれスルー出力されます。

初期設定ではAAC以外のデジタル信号は常にスルー出力されるようになっています。AACを含めすべてのデジタル信号をスルー出力したいときは、セットメニュー「6 D-THROUGH」で設定を変えてください。P.17「D-THROUGH(AAC信号スルー出力の設定)」を参照してください。

セットメニュー

本機には、8項目のセットメニューがあります。各項目の説明に沿って設定してください。

メモ

再生中もセットメニューを設定できます。

セットメニューの1~5は、AAC信号入力再生時のみ適用されます。

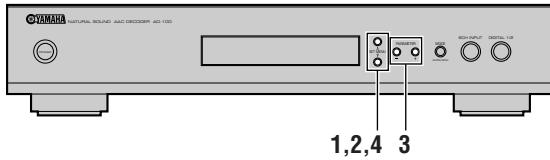
メモ

メニュー設定後、約30秒後そのままにしておくと自動的に入力信号表示に戻り、セットメニューが終了されます。

メモリーバックアップについて

本機の電源スイッチをオフにしても、セットメニューの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源を入れなくても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定をしてください。

セットメニューの操作手順



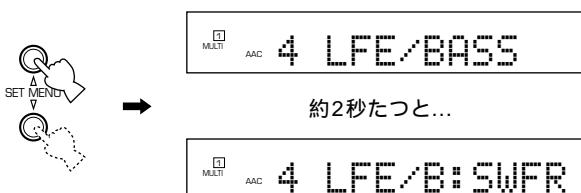
1 SET MENU(△/▽)キーを押します。

セットメニュー項目がディスプレイに表示されます。

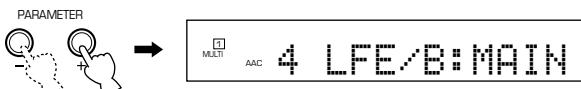


2 SET MENU(△/▽)キーを繰り返し押して、設定したいメニュー(1~8)を選択します。

選択後、約2秒たつと自動的に現在の設定がディスプレイに表示されます。



3 PARAMETER(+/ -)キーを繰り返し押して、設定を変えます。



4 セットメニューを終了したいときは、入力信号表示になるまでSET MENU(△/▽)キーを繰り返し押してください。



1 CENTER SP (センタースピーカーモード)

センタースピーカーを追加することによって、画像と音像により一体感が出ます。また優れた音場効果の得られるリスニングエリアも広がるため、多くのリスナーでお楽しみいただけるようになります。

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード(LARGE/SMALL/NONE)を選択します。

初期設定: LARGE

ラージ
LARGE

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

1 CNTR:LARGE

スモール
SMALL

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4 LFE/BASS」で選択したスピーカーに出力されます。

1 CNTR:SMALL

ノン
NONE

センタースピーカーを使用しないモードです。センターチャンネル信号は、メインスピーカーL/Rに同じレベルで振り分けられます。

1 CNTR:NONE

メインスピーカー
2 MAIN SP
(メインスピーカーモード)

使用するメインスピーカーに合わせて、モード(LARGE / SMALL)を選択します。

初期設定: LARGE

ラージ
LARGE

メインスピーカーL/Rに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインスピーカーL/Rに出力されます。

2 MAIN:LARGE

スマール
SMALL

メインスピーカーL/Rに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4 LFE/BASS」で選択したスピーカーに出力されます。

2 MAIN:SMALL

メモ

SMALL設定時でも、「4 LFE/BASS」の設定がMAINの場合は、メインL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインスピーカーL/Rに出力されます。

「3 REAR SP」の設定がNONEの場合は、リアL/Rチャンネルの信号はメインスピーカーL/Rに同じレベルで振り分けられます。

リアスピーカー
3 REAR SP
(リアスピーカーモード)

使用するリアスピーカーに合わせて、モード(LARGE / SMALL/NONE)を選択します。

初期設定: LARGE

ラージ
LARGE

リアスピーカーL/Rに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーL/Rにリア側サブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーL/Rに出力されます。

3 REAR:LARGE

スマール
SMALL

リアスピーカーL/Rに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4 LFE/BASS」で選択したスピーカーに出力されます。

3 REAR:SMALL

ノン
NONE

リアスピーカーL/Rを使用しないときのモードです。リアL/Rチャンネル信号は、メインスピーカーL/Rに同じレベルで振り分けられます。

3 REAR:NONE

4 LFE/BASS (バスアウトモード)

LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。
(LFE信号: 5.1chソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される低域効果音。低音域信号は90Hz以下。)

初期設定: SWFR

サブウーファー
SWFR

サブウーファーを使用する場合のモードです。LFEと、1~3の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。

4 LFE/B:SWFR

メイン
MAIN

サブウーファーを使用しない場合のモードです。LFEと、1~3の設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メインL/Rスピーカーに出力されます。

4 LFE/B:MAIN

ボース
BOTH

サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーL/Rの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。メインスピーカーL/Rの低音域がメインスピーカーL/Rとサブウーファーの両方に出力されます。

4 LFE/B:BOTH

メモ

1~3の設定をSMALLにすると、SMALLに設定したチャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEに加わって「4 LFE/BASS」で選択したスピーカーに出力されます。

5 SOUND (二重音声出力の設定)

二重音声放送受信時の主音声と副音声の出力モードを設定します。

初期設定: MAIN

メイン
MAIN

主音声のみを出力するモードです。メインスピーカーL/Rに主音声が同じように振り分けられて出力されます。

5 SOUND:MAIN

サブ
SUB

副音声のみを出力するモードです。メインスピーカーL/Rに副音声が同じように振り分けられて出力されます。

5 SOUND:SUB

オール
ALL

主/副音声を同時に出力するモードです。PCM信号が入力されている場合、メインスピーカーL/Rへの音声の振り分けはBSデジタルチューナー側の設定により決まります。BSデジタルチューナーの取扱説明書を参照ください。

5 SOUND:ALL

メモ

二重音声ステレオ信号放送などは、二重音声出力を本機で設定することはできません。BSデジタルチューナー側で設定してください。

6 D-THROUGH (AAC信号スルー出力の設定)

光デジタル入力端子1または2に入力されるデジタル信号のうち、AAC信号をスルー出力するかしないかを設定します。

この設定は現在選択している入力端子に対してのみ適用されます。選択していない端子は常にスルー出力されます。

初期設定: OFF

OFF

入力されているデジタル信号のうち、AAC信号は出力されません。AAC信号以外の信号(PCMなど)はスルー出力されます。デジタル信号のスルー出力先の機器がAACに対応していない場合はOFFに設定してください。

6 D-THRU:OFF

ON

入力されているデジタル信号が常にスルー出力されます。

6 D-THRU:ON

7 INPUT DTCT
(入力感知機能の設定)

光デジタル入力端子の選択方法の設定をします。

初期設定: AUTO

オート
AUTO

信号の有無を感じし、信号が入力されている光デジタル入力端子を自動的に選択する場合の設定です。

7 INPUT: AUTO

また、この設定のときにDIGITAL 1/2キー押すと、光デジタル入力端子1および2の両方に信号入力があるときに優先して選択する端子を設定することができます。

“ AUTO:1>2 ”を選択したとき

光デジタル入力端子1を優先的に選択します。

“ AUTO:2>1 ”を選択したとき

光デジタル入力端子2を優先的に選択します。

フィックス
FIX

DIGITAL 1/2キーを押して光デジタル入力端子を手動で選択する場合の設定です。

7 INPUT: FIX

8 OUTPUT LVL
(アウトプットレベルの設定)

6CH OUTPUT端子からの出力レベルを全チャンネル同時に変えることができます。

スピーカーモード(セットメニュー1~4)の設定や、お使いになる接続機器、入力信号の大きさなどにより、メインスピーカーやサブワーファーの音が歪む場合には、OUTPUT LVLを下げてお使いください。

初期設定: 0

設定範囲: -15 ~ 0dB(3dBステップ)

-キーを押すと出力レベルが小さくなり、+キーを押すと出力レベルが大きくなります。

8 LVL: -3dB

メモ

6CH INPUT端子に入力されている信号はレベルの調整ができません。

9 DIMMER
(ディマー)

ディスプレイの明るさを調節します。

初期設定: 0

設定範囲: -4 ~ 0

-キーを押すとディスプレイが暗くなり、+キーを押すとディスプレイが明るくなります。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合には、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄のヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込みます。	-
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込みます。	-
音が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	9,10
	入力ソースの選択が適切でない。	DIGITAL 1/2キーまたは6CH INPUTキーで正しく選択してください。	12
	アンプのボリューム(音量)が絞られている。	ボリュームを大きくしてください。	-
	消音されている。	アンプのリモコンのMUTE(消音)キーまたはVOLUME+/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	-
音が突然出なくなる。	消音されている。	アンプのリモコンのMUTE(消音)キーまたはVOLUME+/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	-
エフェクトスピーカー(センター、リア、サブwoofer)から音が出ない。	出力モードを2CHに設定したまま、5.1chソースを再生している。	AUTOに設定してください。	13
センタースピーカーから音が出ない。	セットメニューの「1 CENTER SP」をNONEに設定している。	センタースピーカーモードを正しく設定してください。	15
リアスピーカーから音が出ない。	セットメニューの「3 REAR SP」をNONEに設定している。	リアスピーカーモードを正しく設定してください。	16
サブwooferから音が出ない。	セットメニューの「4 LFE/BASS」をMAINに設定している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	17
	セットメニューの「4 LFE/BASS」をMAINまたはSWFRに設定したまま、2chソースを再生している。	BOTHに設定してください。	17
	ソースに低音信号(90Hz以下)が含まれていない。		-
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	POWERスイッチを押して電源を切り、2秒以上たってからもう一度POWERスイッチを押して電源を入れてください。	-
低音の再生不良。	サブwooferを使用していないのにセットメニュー「4 LFE/BASS」をSWFRまたはBOTHに設定している。	MAINに設定してください。	17
	セットメニューの各スピーカーの出力モード(メイン、センター、リア)がスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーを適切な出力モードに設定してください。	15 - 17

仕様

周波数特性(メインL/R、センター、リアL/R)	20Hz ~ 20kHz、±0.5dB
S/N (IHF-Aネットワーク)	110dB以上
出力電圧/インピーダンス	
0dBFS時	2.0V/1.2k
-18dBFS時	250mV/1.2k
電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	10W

ACアウトレット(100Wまで)	1
寸法(幅 x 高さ x 奥行き)	435 x 86.3 x 276.8mm
重量	3.5kg
付属品	オーディオ接続コード(2ピン) x 2
	オーディオ接続コード(1ピン) x 2

*仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。

技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エーペンジングの差による音色の違いが出る場合があります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

A V 国内営業部 TEL (053) 460 - 3451

A V・IT品質保証部 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (03) 5488 - 5500 (転送)

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙 台 〒984-0015 仙台市若林区御町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜 松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大 阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広 島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四 国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九 州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。

コケくさい臭いがする。

電源コードに深いキズか変形がある。

製品に触るとビリビリと電気を感じる。

電源を入れても正常に作動しない。

その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。

なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。